

会議録（要点筆記）

会議名	第2回米原市地域福祉計画推進会議
開催日時	令和5年3月8日（水）午後7時から午後9時まで
開催場所	米原市役所 本庁舎1階 コンベンションホール
公開・非公開	公開
傍聴人	なし
出席者	出席委員：14人 志藤委員、中村委員、阿藤委員、木船委員、川嶋委員（ZOOM参加）、眞野委員、野一色委員、野田委員、福永委員、伊賀並委員、松本委員、堀田委員、永田委員、田辺委員 欠席委員：1人 伊部委員 事務局：8人 市：松岡くらし支援部長、森川課長、堀課長補佐、藤本課長補佐、中田市社会福祉協議会：田中事務局次長、村山協働推進課長、伏谷（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 伊藤拓人、宮内優季
議題	1 開会 2 あいさつ 3 協議 （1）アンケート調査結果報告 【資料1、資料2】 （2）ふくし座談会の経過報告 【資料3、資料4】 （3）ふくし座談会 （4）その他報告事項 【資料5】 4 閉会
結論	○アンケート調査結果報告について ・事務局説明を受けて意見交換・審議 ○ふくし座談会の経過報告について ・地域福祉計画推進会議内でのケーススタディの家族について ・ケーススタディごとの意見交換 ○その他報告事項について ・今後のスケジュールの説明
1 開会	平日の夜分に御多用の中、第2回米原市地域福祉計画策定委員会に御出席をいただきありがとうございます。定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。伊部委員が欠席、川嶋委員が都合によりZOOMでの参加となります。過半数の出席をいただきましたので、米原市地域福祉計画推進会議規則第3条の規定により、本会議が成立したことを、御報告します。

開会に先立ち、志藤会長よりごあいさつをお願いします。

2 あいさつ

会長：前回の会議から随分時間が経ちました。皆さんに御議論いただいたアンケートの結果を、今日は見せていただけるということで楽しみにしています。この間、座談会を開催しており本日は私どもも座談会をするということになっています。座談会の経過も報告をいただきます。4月から策定年度を迎えるわけですが、それに向けていろいろと資料も揃ってきているところだと思います。今日は聞く時間の方が前半長くて、後半はいろいろとディスカッションをして終わりという形になるかもしれませんが、御協力のほどよろしくをお願いします。

事務局：配布資料の確認をさせていただきます。

お手元に配布しています資料は、

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・第1回米原市地域福祉計画推進会議の会議録
- ・【資料1】第3次まいばら福祉のまちづくり計画策定のためのアンケート調査結果報告書
- ・【資料2】第3次まいばら福祉のまちづくり計画策定のためのアンケート調査御協力のお願い
- ・【資料3】ふくし座談会チラシ
- ・【資料4】ふくし座談会概要経過報告
- ・【資料5】第3次まいばら福祉のまちづくり計画策定スケジュール

以上7点です。配布漏れなどはございませんでしょうか。本日の会場につきまして、21時で閉館となりますので皆さんの御協力をお願いしたいと思います。

3 協議

(1) アンケート調査結果報告【資料1】

事務局：議事進行を志藤会長にお願いしたいと思います。

会長：次第に基づき進行します。(1) アンケート調査結果報告について事務局に説明をお願いします。

事務局：資料1のアンケート調査結果報告書を御覧ください。ページを追って御説明します。

P1は調査の概要となっており、前回の会議で御意見をいただいた内容で調査票を作成し、昨年12月に調査を実施しました。2,000件の配布に対し回収数が811件ということで、回収率は40.6%となっています。P2からは調査結果です。最初の方は回答者の属性ということで性別や年齢、お住まいの地域等となっています。P9を御覧ください。「お住まいの地域とのかかわりなどについて」ということで、問8「あなたは、

自分が住んでいる地域にどの程度の愛着を感じていますか」という設問のグラフを見ると、今回調査と前回調査ということで前回と同じ設問は比較できる形にしています。今回調査を見ると8割以上の方が「大変愛着を感じている」「どちらかという愛着を感じている」と愛着を感じている層となっています。下のグラフは年齢別の傾向になっており、年齢が上がるほど愛着を感じているという割合が高くなっています。P11問8-1「愛着を感じている理由は何ですか」について、「長く住み続けているから」や「自然環境の豊かさ」と併せ「地域との交流」や「治安の良さ」というところが高い割合になっています。P12 愛着を感じていない人の理由としては、「地域の人と親しくしていないから」が挙げられています。愛着を感じている理由と併せ、住民同士の交流や繋がりが、まちへの愛着を高めることに関わってきることが伺えます。P13を御覧ください。問9「あなたにとって「身近な地域」とはどの程度の範囲ですか」という設問に対しては、前回調査と傾向が変わっています。「組・班」「自治会」「旧町域」というところでは、回答が少なくなっている一方、「小学校区」「中学校区」「米原市」等の広い範囲が多くなっています。下の表で年齢別の結果を見ると、40歳以下の年代では「米原市」という広域、50歳以上では「自治会」という意見が多くなっており、世代別での地域の捉え方が変わりつつあることが伺えます。P14を御覧ください。問10「あなたは、御近所とのお付き合いをどの程度していますか」について、P15で年齢別で少し差が出ています。50歳以下では「あいさつをする程度」、60歳から80歳、90歳以上では「会った時には立ち話をする」が多くなっています。年齢が上がるほど困った時に互いに助け合うという割合が多く、若い世代における地域とのつながりの希薄化もこうしたところに表れているかと感じられます。P20を御覧ください。問13「近所に、周囲の人の手助けや協力・支援が必要だと思われる御家庭はありますか」について、「ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの家庭」が最も多くなっています。また「特にない」「わからない」も2割程度となっています。P24を御覧ください。問16「あなたが御近所で困っている人に手助けをする場合、どのような支援があれば手助けしやすいと思いますか」については、「気軽に相談できる窓口」が多くなっている一方、「活動できる拠点や場所」「活動に関する情報発信」も高くなっています。窓口の周知や、活動可能な施設の情報発信等も強化が必要であるということも伺えます。P29を御覧ください。「3. 日常生活について」、問18「あなたは、日々の生活で困っていること、悩みや不安を感じていることはありますか」については、「自分や家族の「心身の健康」「自分や家族の「老後の生活設計」」などの回答が多くなっています。P33の問19「あなたは、日々の生活のなかで困ったことがある時、誰に相談していますか」については、「家族・親戚」「友人・知人」が多くなっている一方で、「行政」「社会福祉協議会」等の公的な機関に対する割合は少なくなっています。P38を御覧ください。問20「誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくため、身近な地域で、今後必要と思うことはどんなことですか」については、「施設やサービスの充実」が挙げられる一方で、「困った時に困ったと言える（言いやすい）環境」も多くなっています。

P42 を御覧ください。問 24「新型コロナウイルス感染拡大により、日常生活にどのような変化がありましたか」については、「④地域・社会とのつながり」「⑦生活の経済面」では悪くなったという回答が 3 割以上となっています。問 25「新型コロナウイルス感染拡大によって今後期待することはどのようなことですか」については、「医療体制の充実」が最も高くなっています。P45 を御覧ください。問 27「地域の住民自治活動を活発にするためには、何が重要だと思いますか」については、「住民一人ひとりが地域への関心を高めること」が最も多く、「みんなが気軽に参加できる地域イベントの開催」「近所の人とのつながりをつくる」なども多くなっています。身近な地域に関心を持ってもらって、地域においてつながることが必要になってくると考えられます。P47 を御覧ください。問 28「お住まいの地域で行われている活動の中で、この 5 年間に参加したものはありますか」については、「⑧美化・環境活動」「①住民自治活動」「⑥防災活動」が多くなっています。今後の活動の促進についても、こうした関心の高い内容をきっかけとしていく視点も必要になると思われれます。P49 を御覧ください。問 21-1 として地域活動に参加したくない方にその理由をお伺いしています。「仕事や家事が忙しいから」「興味が無い」が多い一方で、どのような機会があれば参加したいかを、P50 の問 28-2 でお伺いしていますが、「時間や日程の都合が合えば参加したい」という回答が 7 割を超えています。P51 を御覧ください。問 29「地域における助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか」については、「地域における温かな人間関係」「学校教育や社会教育で、福祉教育を充実する」「福祉活動に携わる人やそのリーダーを養成する」など支え合いの意識や人づくりというところが求められています。P52 を御覧ください。「5. 災害時の支え合いについて」お伺いしています。問 30「避難行動要支援者登録制度」について、知っていますか」については、「知らない」が 50%以上となっています。P54 を御覧ください。問 31「あなたは、地震等の災害に対する備えとして、大切に思うことはどんなことですか」については、「避難所・避難経路・備蓄等の適切な確保」「地域での防災・避難訓練」等が高くなっています。P57 を御覧ください。「6. 地域福祉に関連する制度や機関、団体について」、問 32「あなたは、福祉に関する情報を、どこ（誰）から入手していますか」については、「自治会」「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」「市役所」が多くなっていますが、前回調査と比較して「インターネット」が上昇しています。P58 の年齢別で見ると、特に若い世代で多くなっています。P59 からは福祉のまちづくり計画や福祉圏域、地域包括ケアシステムなどの認知度をお伺いしています。福祉に関連する内容については「知らない」という回答が多くなっています。P65 を御覧ください。問 37「あなたは、住んでいる地域を担当している「民生委員・児童委員」を知っていますか」については、年齢別で見ると、50 歳代以下では 5 割を下回っています。P71 を御覧ください。問 42「あなたは、「米原市社会福祉協議会」を知っていますか」について「名称も、その活動内容も知っている」は 3 割程度になっており、「名称を聞いたことがあるが、その活動内容はあまり知らない」は 5 割近く

となっています。P75を御覧ください。「7. 米原市の地域福祉施策について」では、問44「あなたは、子育てや高齢者、障がい者に関するサービスを安心して利用できるようにするため、どのようなことを充実すべきだと思いますか」については、「福祉サービスを適切に選んで利用できるように支援する相談窓口を充実する」が最も多く、「福祉サービスにかかわる人権侵害や苦情について、安心して気軽に相談できる窓口を充実する」「福祉サービスにかかわる人材の育成を充実する」が多くなっています。P76を御覧ください。問45「あなたは、福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えますか」については、「福祉課題については、行政も住民も協力し合い、共に取り組むべきである」が6割を超えており、協働によるまちづくりが求められています。P78を御覧ください。問46「今後、米原市が健康や福祉を充実していくうえで取り組むべき施策として、どれを優先して充実すべきだと思いますか」については、「③高齢者や障がい者が、安心して在宅生活をおくれるサービスの充実」「①身近なところでの相談窓口の充実」「⑩子育てが安心してできる子育て支援サービスの充実」等が多くなっています。P79の年齢別で見ると、若い世代では子育て支援、50歳以上では「高齢者・障がい者が、安心して在宅生活をおくれるサービスの充実」が多くなっています。今説明したものの以外にも課題につながるものがあると思いますので、この中から地域の情報を踏まえた課題整備を行ってまいります。

会長：事務局からの説明について質問等はございますか。量も多いので難しいかもしれませんが、前回と比較してどちらかというと傾向的にはまずい状況になっていると受け止めました。活動への参加意欲なども含め、地域の関係が希薄になりつつある傾向が顕著に出ているのではないかと思います。一方で、気軽に相談できる窓口を求めるところも多く、このような状況をどのようにアプローチするのかが課題であると見させていただきました。私は米原市に住んでいないので、地域の状況がよくわからないのですが、特に米原地域のところでの関係の希薄性のようなものははっきりと出ていると思います。例えば、コロナで行事が中止になってしまって、地域の関係性が希薄になった結果ということもひとつは考えられると思います。また新規転入が拡大している地域では、あいさつ程度で、近所でお互いに話しをする機会がなく、ますます状況が悪化しているということも考えられるかと思っています。課題のまとめは別添であります。状況としてはまずいなという感じの印象を受けたのですが、そのあたりは分析されているのでしょうか。

事務局：おっしゃっていただいたような傾向がコロナの影響もあり、地域とのつながりの希薄化が加速していると感じています。こうした傾向は都市部では前々から進んでいたところだと思いますが、コロナを経て地方にも進んできて、意識が変わってきているという印象として感じています。一方で、情報の入手でインターネットが非常に多くなっており、本日の会議もオンラインでの参加という形もありますので、地域への参加や交流のあり方も変わってくると思っていますので、時代に合わせた福祉のあり方を捉えていきたいと思っています。

会長：参加に対して興味がない、参加する気持ちはない、関心がないという回答が前回に比べて10ポイント以上上がっているところが見られます。これは深刻だと感じました。頼るところがない、頼ることはない、頼りたくないということが実は一番危ないと思います。そのあたりも、これから計画を作っていく課題であると思います。これから知恵を集めていかないといけないと思います。時間も押していますので、また何か感想等があれば事務局に投げてくださいとか、結果はこうだが何故こういう結果になるか、情報提供をしていただければという感じでしたら計画の策定に活かしていけるとと思います。

委員：今は人間が違ってきていると思っています。今の人は、あまり人のために尽くすことや、人とともにいろいろなことをすることを嫌うようになってきました。世の中が便利になってスマートフォンで何でもできてしまう、あるいはテレビでいろいろなことが観ることができるというような、社会の変化が影響をしているのかわからないですが、みんなとともにするということは、親類でも何であろうがみんなが嫌になってきているような、自分本位にやりたいという状態でないかと思っています。みんなで助け合うということが難しい時になっているのかと思います。

委員：P45の問27で、「みんなが気軽に参加できる地域イベントの開催」のニーズは高まっていますが、「近所の人とのつながりをつくる」というところは低くなっています。時代というよりは、つながりという抽象的なものよりは、どうつながれるのかという具体的なことを今の人たちは求めているのではないかと思います。ツールとして発信の仕方は、スマートフォンにしても何にしても使いやすさが増えてきているあたり、配慮しないといけないところがたくさんあるかと思っています。このあたりの地域ニーズを洗い出していくことが重要ではないかと思っています。私は50歳になったところですが、自治会やまちの集まりはどちらかというと嫌いではありませんが、二分されると思います。まちの楽しさや祭り、一緒に草刈をするなどでも、日程云々とかいうよりは知らない人とか、離れて暮らすという、私たちが培ってきた社会の構成上、子どもたちが興味ないという分析結果も含めて、地域でどれくらい密に過ごせていたかという結果かと思っています。私立の学校へ行く、遠くの大学へ行き離れることになって、もう一度帰ってきた仲良くするということが難しいことで、そうした時の分かりやすさ、相談のしやすさみたいなものは具体的な方法を示すということで、相談をしたいけれども何を相談したらいいのか分からないということも含めて、単純に窓口を作っただけでもだめだと思います。思いも希薄で、助けてほしいけれども協力はしたくないということも含めた地域づくりや分かりやすさが必要なのかと感じました。今までの自治会や民生委員といったあるものだけ頼っていてもいけないと率直に感じました。

会長：私は他の自治体で同じようなアンケートを見していますが、どこも同じような傾向が強くて、今おっしゃったみたいに社会が便利になっているけれども、人と人が接していくことそのものが、一緒に楽しむ、相談することや話しをすることが、全体的に減ってきて、相談もしない、関心がないという回答傾向が共通して出ています。コロナの3年間はまずいということが、よく出ているのではないかと思います。その分、リカ

バリーしていくような、取り返していくような地域の取組をどんどんやっていかないといけないだろうと思います。

(2) ふくし座談会の経過報告【資料3、資料4】

会長：ふくし座談会の経過報告に関して、報告をいただけますか。

事務局：資料3の「ふくし座談会の参加者を募集します」と書かれたチラシを御覧ください。地域にお住まいの方に地域福祉に関わる様々な事例について、支援のあり方を検討していただき課題や取組状況の実態を把握するとともに、参加者の方からアイデアをお聞きする場として、ふくし座談会を実施しています。土日祝日での開催や夜間での開催等、様々な方が御参加いただけるように開催時間や場所を分けて開催しています。続いて資料4のふくし座談会概要経過報告を御覧ください。資料3にて掲載している分と合わせて3月1日に伊吹山中学校13名の方に、ふくし座談会を行っていただきました。本日、後半にて開催させていただいたものも併せて計8回を開催予定としています。開催日時や場所、参加者数の実績については御覧のとおりです。次に開催概要についてですが、今回のふくし座談会はケーススタディ型のワークショップを開催させていただきました。参加者の皆さまにグループに分かれていただき、各グループに仮に作成した地域福祉に係るケースを割り振らせていただき、そのケースに対して起こりうる課題、課題に対して自分ができること、必要となる取組アイデアをそれぞれ「課題カード」「これできますカード」「必要ですカード」として、それぞれを記入し、共有していただけてまとめていただきました。またグループを変更し、詰み上げ式で意見を追加していただけるような形で40分間のグループワークを計2回行っていただきました。取り組んでいただいたケース内容やその振り分けについてはP2以降に掲載しています。P6の後にはふくし座談会の成果を色つきの紙で掲載しています。こちらは2月23日に開催したふくし座談会のまとめの模造紙をデータで作らせていただきました。このような形で「課題カード」を出し、それに対して黄色の「これできますカード」を付けていただき、さらに緑色の「必要ですカード」を付けていただきました。続きまして展示設置になります。ふくし座談会にて取り組んでいただいた成果物を市役所本庁舎やゆめホール等の複数施設に展示させていただいて、展示を見ていただいた方にも意見を出していただけるように検討しています。時期は、3月下旬の展示開始を目途に現在調整を進めています。ふくし座談会の経過報告は以上です。

会長：ふくし座談会について何か御質問等はよろしいでしょうか。これから我々が実際にやって、今説明していただいたことについて、そこで起こることも出てくるかもしれませんが。黄色のところは良い提案がたくさんあります。

委員：このふくし座談会はどういった方が参加されていますか。

事務局：地域住民から申し込みをいただいた方、民生委員の方、自治会長、福祉事業所にお勤めの方など様々な方が御参加いただいています。

委員：元々関心があるという方が多いのでしょうか。

事務局：そうですね。御参加いただいている方は関わっていただいている方も多いと思います。

委員：本当はそうではない人にやってほしいのですよね。

事務局：そういった方の御意見も必要になるかと思えます。

委員：私たちはこれからケーススタディをこのメンバーでやるべきなのかと思いました。先程のアンケートの結果の検討をもっとした方がいいのではないかと思うのですが。

会長：そのあたりはいかがでしょうか。なかなか御提案の内容が全体スケジュールに関わることで、どのように判断していいのかと思えますが。

委員：私も資料を送っていただいた時から、この会議でふくし座談会をやるのかということを考えていました。先程のアンケートで御意見をされていたみたいに、やはりアンケートの選択肢が抽象的なので、その内容が本当にどうなのかというところを考えないと、実際に何かするという時に、窓口を作ることやイベントを行う、教育をするという時にどういうことが本当に必要なことなのかということ、いつもざっくりとした計画になって、実際は誰がそれをやるのかということになります。せっかくなので、この会議の委員の方それぞれにいろいろな活動もされていて見識をお持ちの方も多いので、そういったことを検討した方がいいのではないかと思ったのですが。今日が無理ということであればどちらでも構いませんが、私はそのように思いました。

会長：そういう御意見もありますが、他の委員の意見も伺いたいと思います。

委員：計画の中身云々とか申し上げたように、私も資料を送っていただいた時に思うところはありました。事務局としてこの時間でふくし座談会をやろうという意図もあるのかと思っていたので、そのあたりを教えてもらった上でできたらありがたいと思います。19時から21時の時間設定した時にふくし座談会が入っていなければ、もしかしたら19時から20時で終わっているのであれば時間は一緒なのかなと思うところもあります。今回、意図を聞かせてもらった上で、時間的なことも検討していただきたいと思います。今おっしゃられたようにアンケートのところは確かに深めた方がいいのではないかと思います。社会福祉協議会の認知度が低い云々があることや、民生委員はみんな頑張っているのに知らない人がいるというあたりも含めて、いろいろやってきたトライ・アンド・エラーも含めて、やっていく中の会議であってほしいと思うと、いろいろな人の意見やどうすべきなのかという時間がもう少しほしいと思います。そのあたりは会議の中でうまく精査していただけるとありがたいと思います。

事務局：アンケートの概要を説明させていただきました。いろいろな傾向については、先程説明させていただいたとおりですが、ふくし座談会の今回のテーマとして、社会的な課題を一つのテーマとさせていただきます。その中で、それぞれ専門的な分野を得意とされているところがございますので、そこから座談会の意見を、アンケート結果と突き合わせて、それが新しい今後の福祉を作っていく一つのテーマになるのではないかと、一つの方法がこういうこともあるということをつなぎ合わせることでできたらという思いで、今回ふくし座談会をこの場でさせていただこうというように考えました。委員のみなさまから具体的な意見をいただいて、今後の福祉のまちづくりに活か

していきたいと思っていますので、まずはふくし座談会とはどういうものなのかということについて、今回ワークショップ的なものですが、御説明を聞いていただきまして、その中でアンケートの分析の方が、議論がより具体的という皆さんの御意見でありましたらそこで深めていっていただきたいと思います。

会長：座談会の説明をということですか。

事務局：はい。

会長：その前に手を挙げていただいていますので。

委員：事務局からの説明を聞くと分かりましたが、ふくし座談会は3月18日まで続くと思います。全て終わってからアンケートと照らし合わせて話し合うのであれば分かりませんが、今は途中で、そのあたりも気になります。資料に内容が出ています。これは私も見てもしょうがないのではないかと思います。ひとまず18日のふくし座談会終了後にまとめていただいて、それをアンケートと照らし合わせてみんなと一緒に考えるのであればわかると思いました。別件ですが、面白いと思ったのは、アンケート調査結果のP39の問21「仕事や生活に困っている人を地域で支えることが必要だと思いますか」とあります。ほとんどが50%を超えています。みんながそう思っているのだと思います。でも地域に愛着を感じていない人が多いとおっしゃっていましたが、これはどうつながっているのか、どう見たらいいのかよく分かりません。P12問8-2「愛着を感じていない理由は何ですか」という問いがあります。「生まれ育ったまちではないから」が43%で愛着を感じていない、持っていないということです。P39の問21のあたりに、愛着を感じない、自分が困った時に支えてほしいという気持ちを持っているのか、どう関わりがあるのかどうか考えているところです。

会長：事務局からふくし座談会の説明をさせてほしいということだったのですが、座談会の内容についての説明をいうことですか。説明をお願いします。

(3) ふくし座談会

事務局：概要、狙いについて説明します。先程から御意見が出ており、アンケートの結果は、全体の傾向の把握までになってくると思います。そのさらに先のことについてはなかなかアンケートから把握するのは難しいので、今回のふくし座談会では、一歩踏み込んだ課題について検討できないかということで実施しています。やり方として、前回の地域福祉計画策定の時には、地域の課題は何ですかという入りから、解決方策という形で幅広い意見をいただきました。今回は、具体的なケースを設定して実施しています。参加いただいているのは、公募の市民の方、福祉事業所の方、団体に活動されている方、民生委員や自治会の方で、それぞれの立場から、例えば一人暮らし高齢者の人が地域にいた時にどんなことが課題になっていて、自分たちがどういうことができるのかということを考えていく機会として設定しました。各会場で共通するケースと個別のケースを設定し、ケースごとにグループワークをしていただいています。実施途中になりますので、今日お示ししたカラー刷りの模造紙をデータ化したものは、

第1回の御意見です。ケースは、具体的に何歳の方で、こういう家族構成でという設定をしており、その確認をしながら、行間にある課題であるとか、今はまだ課題ではないけれども数年後に課題になってくるのではないかということも含めて検討いただいています。本日のメンバーで座談会を行う意義については、全部の結果と突き合わせての課題の整理は次回の会議でお示しをさせていただく予定ですが、同じような形で実施していただき、検討のところから入っていただくことで、挙がってきた全体の結果を見る時にも視点が広がるのではないかとということで、この場で実施していただくことを考えさせていただきました。アンケートの結果の掘り下げも重要だと思っておりますが、この場で御意見しづらいところもあると思いますので、そちらもしっかり皆さんの御意見を取り入れていきたいと思っております。具体的なアンケートの内容と、座談会で出た意見をつなぎ合わせ、こういった地域づくりが必要ではないかということについては、次回の会議で皆さんにお示しをさせていただき、具体的にこれでいいのか、こういう視点があるのではないかという意見をいただきたいと思います。

会長：元々の議論からというところは、それも重要なことだと思いますが、この委員会の位置づけとか、委員会のやるべきこと、我々が議論する内容というのは改めて考えるきっかけにもなりました。座談会という形の事例検討をするのか、思ったところそれぞれの知見からなぜなのかということの内容に対する意見交換をするかいかがでしょうか。

委員：2月23日に座談会に参加させていただきました。いろいろな考え方があり、大事なことがいっぱいあったので、良い機会だったと思いました。今日もいろいろな人がおられるので、その分野からいろいろな話しが聞けるかと思って、私は2回目ですがどんなことを専門家の人は考えているのかなと前回とは違った面で話しが広がると思うので、良い経験になると思いました。私は民生委員も兼ねており、民生委員に関するアンケート結果も気になりましたが、またどこかで話しができるので、せっかくいろいろな経験者がいるので、これをどう捉えられるのかということ一度聞いてみたいと思って参加させていただきました。時間は短くなったかもしれませんが、私にとってはこの前のステップで聞いてみたい思いです。

会長：ありがとうございます。

委員：みんなでしゃべれる良い機会なのでやったらどうですか。

会長：座談会ですか。

委員：皆さんのいろいろな意見が出てここからまとめていくことも必要であると思います。先程おっしゃったように、アンケートの結果分析も大事なことであると思います。しかし、いろいろな状況や実情や考え方を、みんなで模索している時なので言いたい人はおられると思いますので、予定通りやったらいいのではないかと思います。皆さんの意見もあるかと思っております。

副会長：私自身も資料を見た時、これは何をするのかと思いました。実際に何を目的にということが書かれていなかったため、この会議に来るまでに、座談会をして一体どう結びつけるのかなと思っていました。目的を話していただいても、わかったような、わか

っていないような現状です。アンケートを議論するにも、もう少し目を通したいところもあるので、今後の委員と詰めていく意味でもいろいろなグループで話し合うことは一つ大事なことであると思います。できればと思いますが、皆さんどうでしょうか。

会長：次回が4月末とか5月末くらいで第3回の会議の予定になっています。その段階で計画骨子案の提案を受けて、骨子案を議論するということが第3回では難しいのではないかと思います。これから短い時間で意見交換をすることも、アンケートをいただいて改めて目を通すにしても、その次の意見を持ち寄ってという会議をもう一回設定していただく必要があるという気はしていますが、いかがでしょうか。そのあたりも含めて判断つかないと思いながら聞いておりました。一旦、短時間で少人数での意見交換をする機会もないので、この機会に我々同士で意見交換をするという時間に使いましょうか。次回の調査報告とその他の座談会についての集約等についての意見交換は次回にするということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

事務局：座談会に移らせていただく前に今後の予定等を説明させていただいて、座談会が終わった頃に今回の締めということをしていただきたいと思います。

(4) その他報告事項【資料5】

事務局：資料5の第3次まいばら福祉のまちづくり計画策定スケジュールを御覧ください。今後の策定スケジュールを御説明します。今の時点では、第3回推進会議を5月・6月頃に予定していますが、第3回推進会議ではアンケート調査、ふくし座談会等の結果を踏まえた課題の取りまとめの御報告をさせていただきます。また、現計画の活動目標等についての評価・検証を市と社会福祉協議会、また福祉事業所へのアンケート調査にて実施しましたので、その取りまとめも御報告させていただきます。またそれらを踏まえた次期計画の大枠の作成させていただき、御報告させていただきます。次に第3回推進会議にて御意見をいただいた後、7月の委員会協議会にて計画の進捗報告をいたします。そして8月・9月頃に第4回推進会議を予定しています。第4回推進会議では、次期計画の素案を作成したものを御報告させていただきますので、委員の皆さま方にはこのタイミングでたくさんの御意見をいただきたいと考えています。第4回推進会議後、いただいた御意見を基に素案を再度作成し、10月頃に開催する第5回推進会議でお示しいたします。こちらを11月の委員会協議会にて報告しパブリックコメントを行う予定です。12月頃開催予定の第6回推進会議では、パブリックコメント等での御意見を踏まえ、次期計画原案をお示しする予定となっています。スケジュールについての説明は以上です。

会長：説明があったように、座談会が終わったら時間がいっぱいいっぱいですので、流れ解放的になるかもしれませんが、意見交換を進めていただけませんか。

事務局：一言補足といいますか追加をお願いしたいと思います。スケジュールについては当初、令和5年度までで5回の審議会ということでしたが、今回は6回ということに変更させていただいています。今後、意見を詰めていく機会というものの中で十分確保さ

せていただけるのかなと思っています。また意見交換ということで先程座談会というお話がありましたが、私どもは皆さんから今後に対する意見や考え方をたくさんいただきたいと思っています。例えば、今回のアンケートで気になったことをカードに書いていただいて、それをこちらで集約させていただくという方法でも同じことかと思いますが、各個別のテーブルに分かれての作業になるかと思いますが、皆さまからの御意見を自由な形でいただければと思っています。

事務局：本日の資料の中の次第の裏側に委員名簿があるかと思いますが、そちらのグループA・B・Cと分かれていますので、お手数ですが、後ろの席を用意させていただきますので、そちらに移動をお願いしますでしょうか。

[ふくし座談会の実施]

4 閉会